

サハ共和国・ヤクーツクだより ⑧

杉嶋俊夫

これまでは「出来事」を中心に書いてきましたが、今回は「人物」に焦点を当ててみたいと思います。

私が以前滞在していたロシアの都市ではアパートに住むことが多かったのですが濃い近所づきあいを体験する機会はありませんでした。今回は滞在期間が短かったかわりに新鮮な体験ができました。寮に住んだことです(写真1)。大学の寮に住むこと自体は初めてではありませんでしたが、共用のキッチンで今回初体験しました。もう一点新鮮だったのは同じ階の住人たちが全員外国人だったことです。

私がお世話になった北東連邦大学は、日本ばかりでなく、韓国、中国、ベトナム、アメリカ、フランスなどの大学と協定を結んでおり、それらの大学の留学生が寮に住んでいます。私が滞在していた時はフィンランド、トルコなどの学生のほか、外国人教師も住んでいました。9割が留学生、1割が教師でした。

ヤクーツクはロシアの中では少々物価の高い町です。毎日外食などするとかなりの出費になってしまいます。寮でも大半の外国人は自炊中心の生活をしていたので、当然キッチンで食事をしたりお話ししたりする機会が多くなります。

また、大学でも国際部というところが外国人のためにヤクーツク市内外のイベントや名所を訪れる企画を度々組んでくれたので、そうした機会を通じてお互いに親しくなっていました。私にとってロシア人以外の大学生と生活の場を共有するのは初めての経験で、彼ら・彼女らの話は毎回とても新鮮でした。

ロシアではやはりモスクワやサンクトペテルブルグといった西側の「便利な」都市に留学生が集中する傾向が強いのですが、意外とロシア人の友達を作るチャンスが少ないようです。それに対してヤクーツクはこじんまりしている分、留学生



4か月弱お世話になった大学の寮 見た目は地味ですが内部はきれいで、立派な寮でした。12月から2月頃までヤクーツクはマイナス30度以下に気温が下がり、一日の大半を屋内で過ごす日が続きますが、今頃、寮に住む人々はどんなことをして長くて寒い冬を過ごしているのでしょうか……。

が現地の学生と知り合う機会が多く、私の印象ではかなり友達を作っているようでした。

私の隣室には若いドイツ語教師の夫妻が住んでいました。本職は政治学の研究(大学院生)で以前にも旧ソ連に滞在した経験があり、その経験とロシア語力を活かして市内に広がる人脈を持っていました。ヤクーツクの町のことを知りたいと思っていた私にとってはかけがえのない隣人でした。契約期間が終わって私より少し早くヤクーツクを去っていきました。

北東連邦大学が積極的に海外の大学と交流を始めたのは15年以上前のことで、大学の国際部にはそれなりの経験と知識の蓄積があります。それでも、外国人の立場になって自国の文化を見ることは案外難しいのでしょうか。

ある日、国際部の主任に、私が口琴に興味があることを告げると「口琴なんてあまりにもありふれていて外国人が聞いて喜ぶようなものだとは考えたこともありませんでした」との返事。「そういえば、今年からプロの口琴奏者がうちで働いているんです。早速ご紹介します」と言うので



口琴奏者サイディコ・フォードロヴァ (Saydyko Fedorova) さん

国際部主任が口琴奏者として紹介くださったフォードロヴァさん(写真2右端)は大学では助手のほかに1年生のチューター(学習補助・生活指導)の業務も担当し、この日は、その1年生と韓国人留学生との交流会を、彼女と私が共同で主催しました。

この集まりでは最初は、参加者達はなかなかリラックスできない様子でしたが最後は何とか打ち解けたようです。

交流会の最後にフォードロヴァさんが口琴の演奏を披露してくれました(写真3)。留学生もサハ人学生たちも感激していました。ちなみに口琴は世界各地にあるのですが、なぜか韓国には、ないのだそうです。

に私を連れて行ってくれました。

紹介されたのは若い女性(写真2・3)で、昨年、大学を卒業したばかりだとのこと。年齢のわりに妙に落ち着いているなと思ったら、学生時代は女性口琴トリオ「アヤルハーン (AYARKHAAN)」のメンバーとして海外を飛び回っていたそうです(アヤルハーンはメンバーが数年単位で替わるしくみになっているらしく、今は彼女はメンバーではありません)。

「単に演奏家として口琴に関わるだけでなく、口琴の発生と分布、各々の民族文化で口琴が持つ意味、新しい科学的研究方法の可能性も探りながら、活動していきたい」と語ってくれました。彼女のように実践と研究の両方に取り組む若者がもっと増えてほしいものです。

最後に、口琴職人・レヴォリ・チェムチョーエフ氏(写真4)を紹介して、今回の稿の終わりとします。

サハ共和国には口琴職人が数多くいます。チェ



口琴職人・レヴォリ・チェムチョーエフ氏(右)

ムチョーエフ氏はその中でも最高レベルの職人です。フォードロヴァさんのアドバイスにより氏に口琴を作っていただきました。自分用に一つ、知人用に二つ、氏の口琴を購入しました。掲載の写真は、その時に世界諸民族口琴博物館で撮った記念写真です。